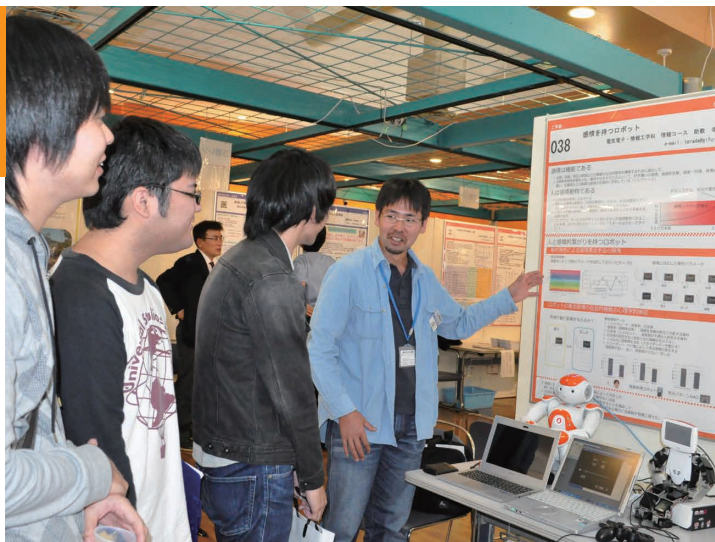


学報

2013年12月 Vol.676



岐阜大学フェア2013（11月1日・2日）

岐阜大学フェア2013を開催	1
第27回岐阜シンポジウム「再生医療最前線2013～日本で再生医療は実現できるか？～」を開催	2
岐阜大学医学部解剖体慰霊祭を開催	3
第38回岐阜大学フォーラム「環境ユニバーシティフォーラム」を開催	3
利益相反講演会「産学連携と利益相反マネジメント」を開催	4
秋の国際週間を実施	4
救命講習を実施	7
岐阜大学長期インターンシッププログラム（GULIP）中間発表会を開催	8
ABSフォーラム「生物多様性条約におけるアクセスと利益配分－名古屋議定書以降の現状」を開催	9
叙位・叙勲	10
学位授与	10
平成25年秋の生存者叙勲　－ 本学関係者 1 名が受章－	10
産学連携の実施状況	11
外国人研究者の受け入れ	11
平成26年度入試募集要項	12
諸会議	23
主要日誌	24
人事異動	《学内限定》25
平成25年度永年勤続者表彰	《学内限定》26

岐阜大学フェア2013を開催

岐阜大学は、11月1日（金）・2日（土）の2日間、岐阜大学フェア2013を開催した。

本フェアは、広く一般の方を対象に、岐阜大学の教育、研究、社会貢献活動を知ってもらうことを目的に、2009年から毎年実施しているものである。

今年度は「地域にとけこむ大学」をテーマに開催され、特に地元住民への積極的な広報活動を行い、2日間で延べ1,069名が来場した。

1日目は、小見山章理事（学術研究・情報・国際戦略担当）による開会の挨拶から始まり、岐阜大学地域交流協力会による秋の特別講演会として、（株）独立総合研究所自然科学部長の青山千春氏を招き、「希望の現場，メタンハイドレート」と題した講演が行われ、参加した企業関係者らにとって有意義なものとなった。

2日目は、第27回岐阜シンポジウム「再生医療最前線2013～日本で再生医療は実現できるか？～」が行われ、東京大学の中内啓光教授らを招き、iPS細胞作製技術により広がった再生医療の可能性等についての講演があった。

また2日間を通じて、全95テーマで教育、研究のポスター発表を行い、各学部の特徴ある分野のパネルを展示した他、全5学部（教育学部／地域科学部／医学部／工学部／応用生物科学部）の学部・入試案内のパネルを展示し、来場した高校生らは興味を持って説明を聞き、積極的に質問していた。

その他、小学生から参加できる実験教室や、応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センターで生産された農産物の販売を行い、子どもからお年寄りまで会場は大いに賑っていた。



ポスター発表の様子

第27回岐阜シンポジウム「再生医療最前線2013～日本で再生医療は実現できるか?～」を開催

本学は、環境・生命科学・情報・教育などの21世紀の重要テーマについて積極的に取り組み、その成果を社会に発信することを目的として、「岐阜シンポジウム」を年2回開催している。第27回は「再生医療最前線2013～日本で再生医療は実現できるか?～」をテーマに、11月2日（土）、本学講堂において開催した。iPS細胞を樹立した京都大学の山中伸弥教授が昨年ノーベル賞を受賞し、我が国の再生医療研究熱が高揚している。本学でも、昨年度、国際・米国両歯科研究学会主催のウィリアム・J・ギース賞を受賞した、医学系研究科手塚建一准教授をはじめとして、再生医療研究が活発に行われていることもあり、今回の岐阜シンポジウムには県内外から一般市民や、企業関係者ら約110人の参加があった。

シンポジウムでは、森学長の挨拶の後、本学大学院医学系研究科手塚建一准教授より「岐阜大学歯髄細胞コレクション」、岐阜薬科大学生体機能解析学大講座分子生物学研究室福光秀文准教授より「脊髄損傷の細胞移植療法開発への試み」と題した講演があった。その後、東京大学医科学研究所幹細胞治療研究センター中内啓光教授より、「iPS細胞が可能にする新しい医療」と題した基調講演があった。iPS細胞作製技術の確立により“自身の多能性幹細胞”を利用する道が開け、疾患を持つ者やそうでない者から樹立したiPS細胞は、これまで考えられなかった新しい医療を可能にするという未来志向の講演であり、中内教授が進めている、iPS細胞の運命をコントロールして、臓器や血液、免疫細胞そのものを作るという最新の研究の紹介があった。

国際的に著名な講演者を招聘し、「iPS細胞」という最新の科学技術を市民に分かりやすく解説されたシンポジウムであった。そして、再生医療に係る今後の国策等も絡めた話もあり、再生医療に関して理解を深めることができ、考えさせられる講演ともなった。



中内啓光教授



手塚建一准教授

岐阜大学医学部解剖体慰霊祭を開催

医学部は11月8日（金）、医学教育のためにご献体いただいた方、病理解剖にご協力いただいた方の尊い遺志とご遺徳を称えるため、岐阜市文化センターにおいて岐阜大学医学部解剖体慰霊祭を執り行った。

今年で60回目となる解剖体慰霊祭は、ご遺族、献体にご登録いただいた方々、来賓、医学部教職員、学生など約420人が参列した。

参列者が黙祷を捧げた後、清島医学部長が、「この尊いご遺志にお応えするために、医学教育の充実と医学医療の発展に全力を挙げて参ります」と追悼の辞を述べた。

その後、医学部学生による室内合奏団の演奏の中、参列者全員が献花台に花を手向け、厳かな雰囲気の中、慰霊祭は終了した。



追悼の辞を述べる学生代表

第38回岐阜大学フォーラム「環境ユニバーシティフォーラム」を開催

11月13日（水）、建築家の伊東豊雄氏を招いて、第38回 岐阜大学フォーラム『環境ユニバーシティフォーラム』を開催した。

当日は、本学講堂において、一般市民22名を含め、学内外より127名の方々の参加を得て、森学長から岐阜大学における環境教育への取組についての紹介に続き、伊東豊雄氏が「私達は明日どのように住むか」というテーマで講演されました。

講演では、東日本大震災後、「みんなの家」を中心に、被災地の人々とコミュニケーションを重ねてきた経験を基に、近代の均質化された人工環境の大都市に住むことから、地域へコミュニティを求める若者が増えていることに触れられた。また、岐阜大学医学部附属病院跡地に建設中の「みんなの森 ぎふメディアコスモス」の設計コンセプトや、ボタンを訪問された時のエピソードも交え、私たちの明日の社会、明日のまち、そして明日の住まいを考える機会となる講演となった。

本学は今回のフォーラムにおける成果のように、今後も様々な知識を集結して環境対策を推進していく。



開会の挨拶をする森学長



講演する伊東豊雄氏

利益相反講演会「産学連携と利益相反マネジメント」を開催

本学は、11月13日（水）、教育・研究におけるコンプライアンスの順守を徹底させるべく、光和総合法律事務所弁護士であり、経済産業省中小企業政策審議会委員でもある竹岡八重子氏を講師に招き、利益相反講演会「産学連携と利益相反マネジメント」を開催した。

講演会には、本学工学部の教職員および研究推進・社会連携機構のリサーチアドミニストレーターら約60名が参加し、熱心に聞き入っていた。

この講演会は、ベンチャー企業の起業や共同研究等で民間企業と関係を持つことが多い工学部の教員を対象として実施したもの。また、12月18日（水）には、応用生物科学部の教員を対象として実施する予定である。

講演では、国立大学における利益相反の現状の説明から始まり、共同研究、奨学寄附金、ベンチャー起業等における具体事例が紹介された。そして、積極的な地域連携・産学連携において必然的に発生するコンフリクトをコントロールし、マネジメントする必要性について熱く語られた。



竹岡八重子氏



講演会の様子

秋の国際週間を実施

国際戦略本部は、11月5日から26日までを「秋の国際週間」と位置づけ、学生の国際交流を主たる目的として、次の行事を開催した。

1. ポスターセッション（11月5日～26日）

国際週間の期間中、本学生協第1食堂の一角を利用し、本学と学術交流協定を締結している機関の最新情報を提供すべく、取り寄せた冊子・ポスターの展示及び滞在中の外国人留学生による母国紹介を中心としたポスターセッションを開催した。欧州からスペイン、クロアチア、中東からイラン、東南アジアからはベトナム、インドネシアと、各国からの外国人留学生が、それぞれ自国の美しい景色や食べ物等について写真を交えて紹介するとともに、各出展者による日本の印象その他についての興味深いインタビューが日本語と英語の併記で掲示された。



ポスターセッションに見入る学生ら



会場では期間中のイベントも毎日告知

2. 留学生等と地元企業との交流会（11月13日）

生協第2食堂にて、産学連携の枠組みで地元企業を知る機会を提供するため、昨年度に引き続き、岐阜信用金庫の協力により地元企業との交流会を開催した。同交流会には、岐阜周辺地域の企業15社が参加し、各社の業務内容や海外進出の状況についてのプレゼンテーションを行った後、懇親会を行い本学の外国人留学生及び日本人学生約30人と交流した。



各参加企業によるプレゼンテーション



地元企業ブースでの交流

3. 岐阜大学 世界とつながる講演会（11月15日）

全学共通教育棟多目的ホールにて、三菱UFJ信託銀行本店営業部業務顧問 平中英二氏による講演「今なゼインドネシアなのか」を開催した。インドネシアの日本大使館や高等教育関係機関での勤務経験があり、同国の事情に精通している平中氏の講演内容は、インドネシアの歴史、文化、地理的特性から政治・経済など多岐に渡り、学内外の約70名の参加者は熱心に耳を傾けていた。講演会終了後は意見交換も行われ、参加者アンケートからは、「インドネシアという国の多様性や成長のポテンシャル、日本とのつながりについて知ることができ興味深かった」との声が上がった。



講演する平中氏



熱心に公演を傾聴する参加者

4. スペシャル・ラウンジ（11月18日）

本学で毎月実施しているイングリッシュ・ラウンジの特別版として、今年度は、日本語、フランス語及び朝鮮・韓国語のスペシャル・ラウンジを実施した。約30人の参加者それぞれが使いたい言語のグループに分かれ、ネイティブ・スピーカーから朝鮮・韓国語やフランス語の基礎知識を学んだり、日本語での会話を楽しんだりした。約30分間という短い時間ではあったが、「英語以外の言語を学ぶきっかけとなる」、「企画が面白い」などと参加者の好評を得た。また、「刺激になった」、「色々な人と交流ができて楽しかった」、「次回も参加したい」という意見も多くあり、英語以外の言語に対する参加者の好奇心が伺えた。



左から日本語、仏語、朝鮮・韓国語の各テーブル



日本語のテーブルでは留学生らと談笑

5. 国際交流支援団体との交流会（11月20日）

医学部記念会館にて、国際交流支援団体との交流会を開催した。本交流会は、本学の国際交流促進のための奨学寄附金の協力企業や団体をはじめ、日頃から外国人留学生の生活を側面から支援する地域の国際交流団体に感謝の意を表するとともに、大学職員と企業・団体の関係者及び外国人留学生の交流の場として毎年開催しており、17年目の開催となる。森学長の挨拶、小見山国際戦略本部長による国際交流活動報告の後、鈴木国際戦略本部副本部長による講演「国際化における大学と地域の連携」が行われた。交流会後の懇親会は、医学部生協食堂に場所を移して行われ、イランからの留学生による母国紹介並びに本学に留学した経緯や留学中に感じたこと等についての発表が行われた。



鈴木国際戦略本部副本部長による講演



懇親会の様子

6. ポットラックパーティ（11月22日）

柳戸会館にて、参加者がそれぞれ食べ物を持ち寄るポットラックパーティが行われた。

このポットラックパーティは、イングリッシュ・ラウンジの一環として毎年行われており、世界各国の食文化を英語でのコミュニケーションを通じて知る良い機会となっている。今回は昨年より多い43人の参加者が、色とりどりの料理を持ち寄り、にぎやかな雰囲気の中で、ゲームや茶道のお点前などを楽しみながら交流した。また、毎回好評のラッフル（寄附金集めの福引）では4,500円が集まり、全額が日本赤十字社の2013年フィリピン台風救援金に寄附された。



色とりどりの料理を味わう参加者



家族で参加した子ども達を囲んでの記念撮影

なお、国際週間中には、上述の国際戦略本部主催のイベントの他に、各部局が主催する外国人研究者による講演会をはじめとする各種行事が次のように行われた。カルロス3世大学工学部・岐阜大学工学部学術交流協定調印式及び記念講演会（11／6）、流域水環境リーダー育成プログラム国際シンポジウム（11／8）、第51回全国大学保健管理研究集会（11／13・14）、メキシコ工科大学研究者による講演会（11／25）、ミャンマー「経済行政（産業振興）コース」研修プログラム（11／26）。また、生協第1食堂においては、11月18日～22日の5日間、世界の料理フェアが開催され、韓国、ベトナム、イタリア等の料理が提供された。

今年度は昨年に続き2度目となる「秋の国際週間」実施となったが、各部局の協力も得ながら、盛況のうちに終えることができた。来年度以降も更なる本学の国際化が推進されるような企画立案に努めていく。

救命講習を実施

10月24日、10月30日、11月28日の3回にわたり、岐阜北消防署黒野分署の協力を得て救命講習を実施した。この講習は、一次救命処置の重要性（応急手当の目的・必要性等）、基本的心肺蘇生法、AEDの使用法、異物除去法、止血法等を講義と実習で学び、万一の場合、救急車が到着するまでの間の応急手当の知識と技術を身につけるために実施したものである。受講者は、救急救命士の指導のもと、真剣に実習に取り組み、質問も多く取り交わされ、非常に有意義な講習となった。会場、受講者数等は次のとおり。

回	講習内容	日 時	会 場	受講者数（人）
1	普通救命講習Ⅰ	10月24日（木） 13時～16時	医学部 小会議室	32
2	普通救命講習Ⅰ	10月30日（水） 13時～16時	大学会館 第6集会室	38
3	普通救命講習Ⅰ	11月28日（木） 13時～16時	大学会館 第6集会室	22



救命処置を学ぶ受講者



講師の話を真剣に聞く受講者

岐阜大学長期インターンシッププログラム（GULIP）中間発表会を開催

11月19日（火）から29日（金）までの間、GULIP（岐阜大学長期インターンシッププログラム）の中間発表会を開催した。

GULIP（岐阜大学長期インターンシッププログラム）は、学部や学年の異なる学生達がチームを編成し、企業から出された課題を検討し、解決策を提案するPBL型インターンシップである。去る8月2日（金）の開講式に始まり、夏休み中に1週間程度、企業等での研修と課題の提示を受け、その後、企業担当者と連絡を取りつつ、学内で解決策を検討して、今回の中間発表を行う運びとなった。

中間発表は、数日にわたって行われ、21日（木）の岐阜大学チームとIT企業のチームの中間発表会では、企業関係者のほか、GULIPの他のチームや大学関係者、約30名の参加を得て、各チーム2時間の持ち時間で、チームの挨拶、プレゼンテーション、企業や視聴者からの質疑応答が行われた。

まず始めに、学生からの挨拶と、『授業のない時間になにかしたかったから』『就職につながることをしたかった』『他の人と異なることをしたかった』等の動機や、『企業の方から直に指導を受けられた』『学校と違う世界を見ることができた』等の感想が述べられた。学生達は、開始前に『プレゼンは授業で学んだけれど、企業関係者の前で行うのはプレッシャーを感じる』『卒論でプレゼンをしたが、これほど長い時間を行うのは初めて…』等と緊張していた。また、企業関係者から、『大変よくできたが、指摘した点が弱かった』『技巧に走り、テーマが何か、チームでの検討する過程がわからない』等の指摘があったほか、他のチームの学生からも『対象とする顧客層がわからない』『もう一步踏み込んでより詳細な解決策を示しては』等の多くの質問や提案があった。

各チームは、今回の指摘、提案を踏まえて作業を続け、約1ヶ月後に予定される最終発表会に望む。



挨拶する廣瀬特任准教授



挨拶する岐阜大学チーム



岐阜大学チームのプレゼンの様子



出題した企業から質疑を受ける企業チーム

ABSフォーラム「生物多様性条約におけるアクセスと利益配分－名古屋議定書以降の現状」を開催

本学大学院連合農学研究科セミナーの一環として、11月29日（金）に岐阜大学大学院連合農学研究科、岐阜大学研究推進・社会連携機構、一般財団法人バイオインダストリー協会（JBA）主催の下、ABSフォーラム「生物多様性条約におけるアクセスと利益配分－名古屋議定書以降の現状」を開催した。

2010年10月に、「生物の多様性に関する条約の遺伝資源へのアクセス及びその利用から生じる利益の公正かつ衡平な配分に関する名古屋議定書」が生物多様性条約第10回締結国会議（COP10）で採択された後、日本は2011年5月11日に署名し、2012年9月に環境省自然環境局長の諮問会議として設置された「名古屋議定書に係る国内措置のあり方検討会」において、現在、批准に向け2015年を目途に名古屋議定書を満たす国内措置（基本方針や方向性等）が検討されている。今後の大学関係機関等の研究者、本学連合農学研究科（博士課程）においては、関連分野の研究実施・推進、教育・研究指導を行うにあたって、注目すべき重要な懸案事項であり、本フォーラムへの大学、企業等からの参加者66名からは各講師との間で積極的な質疑応答、意見交換が交わされ、今後の海外生物資源の利用にあっては遺伝資源提供国の国内法や行政措置に従うことの重要性など、改めて多くの事項について確認・再認識することができ、大変有意義なフォーラムを開催することができた。

なお、本フォーラムは、岐阜大学大学院連合農学研究科の構成大学である静岡大学農学研究科でもTV会議システムにより同時開催され、開催会場である連合大学院農学研究科合同ゼミナール室同様、当システムを通し各講師との間で積極的な質疑応答、意見交換が交わされ、予定時間を大幅に超過しての終了となった。

【フォーラムのプログラム】

- ・「物多様性条約と名古屋議定書」 JBA 井上 歩 氏
- ・「名古屋議定書に係る国内措置のあり方検討会」での議論のポイント JBA 炭田精造 氏
- ・「JBA の ABS 支援措置」 JBA 野崎恵子 氏
- ・「遺伝資源へのアクセス手引（第2版）」の発行について JBA 渡辺順子 氏
- ・「研究機関における ABS への対応の現状～九州大学の活動を例にして～」九州大学有体物管理センター教授 深見克哉 氏
- ・「生物多様性条約下における発酵食品（資源の宝庫）の共有」岐阜大学名誉教授 長野宏子 氏



一般財団法人バイオインダストリー協会 渡辺順子 氏



九州大学有体物管理センター教授 深見克哉 氏

叙位・叙勲

元本学職員に対し、次のとおり叙位・叙勲がありました。

故 名誉教授（元農学部長） 小林 満 氏
正四位 （平成25年10月22日）

故 名誉教授（元工学部教授，元工業短期大学部部长） 平松 宏一 氏
正四位 瑞宝中綬章 （平成25年11月9日）

学位授与

学位の種類	学位記番号	氏名	学位授与年月日	学位論文名
博士（医学）	医博甲第933号	佐々木 裕 介	H25. 11. 20	Wheelchair marathon creates a systemic anti-inflammatory environment in persons with spinal cord injury （脊髓損傷者では車いすマラソンによって抗炎症状態がつくられる）
博士（医学）	医博乙第1473号	飯 田 美 紀	H25. 11. 20	Adenosine monophosphate-activated protein kinase regulates platelet-derived growth factor-BB-induced vascular smooth muscle cell migration （AMP 活性化プロテインキナーゼによる血小板由来成長因子に起因する血管平滑筋細胞遊走の制御）

平成25年秋の生存者叙勲 ―本学関係者 1 名が受章―

平成25年秋の生存者叙勲が11月3日に発表され，本学関係者では次の方が受章されました。

保健衛生功労

瑞宝双光章

竹村 正男 氏

（元医学部附属病院検査部臨床検査技師長）



産学連携の実施状況

○共同研究

(平成25年11月契約分)

部 局 名	研究代表者	企 業 等 名
教 育 学 部	山 田 敏 弘	岐阜市
医学系研究科	手 塚 建 一	岐阜薬科大学, 第一三共 (株)
工 学 部	山 家 光 男	(独) 宇宙航空研究開発機構, (株) 豊田中央研究所, 豊田工業大学
〃	藤 原 裕 之	(株) カネカ
〃	仲 井 朝 美	シキボウ (株)
〃	守 富 寛	(株) 北川工務店
〃	宮 坂 武 志	(独) 宇宙航空研究開発機構
〃	吉 田 佳 典	アイシン精機 (株)
〃	高 橋 周 平	(独) 宇宙航空研究開発機構
〃	吉 田 弘 樹	東邦金属熟練工業 (株)
〃	小 村 賢 一	ハビックス (株)
〃	武 野 明 義	ハビックス (株)
〃	神 原 信 志	澤藤電機 (株)
〃	倉 内 文 孝	京都大学, 立命館大学, 住友システムソリューション (株)
応用生物科学部	光 永 徹	サントリーウエルネス (株)
〃	田 中 逸 夫	(株) 森創
流域圏科学研究センター	沢 田 和 秀	(株) 長大, 基礎地盤コンサルタンツ (株)
〃	李 富 生	名古屋市上下水道局

○受託研究

(平成25年11月契約分)

部 局 名	研究代表者	企 業 等 名
医学系研究科	森 田 啓 之	(独) 宇宙航空研究開発機構
医学部附属病院	吉 田 和 弘	公益財団法人先端医療振興財団
工 学 部	川 崎 晴 久	浜松地域イノベーション推進機構
〃	能 島 暢 呂	東京瓦斯 (株) 基盤技術部基礎技術研究所
〃	山 下 実	公益財団法人岐阜県研究開発財団
応用生物科学部	鈴 木 正 嗣	学校法人酪農学園

外国人研究者の受け入れ

受入部局	氏 名 (国 名)	所属・職名	期 間	研 究 題 目
応 用 生 物 科 学 部	Gabr Abd El-wanees Nasr El-kot (エジプト)	カフルエルシェイク大学 准教授	25. 11. 15 ~ 26. 5. 14	植物病原菌を制御する微生物産物 および自然化合物の可能性
〃	Samy Gomaa Ahmed Kasem (エジプト)	カフルエルシェイク大学 講師	25. 10. 1 ~ 26. 3. 31	Molecular Cell Biology of Equine Herpesvirus Infection
〃	Mohamed Abo Al-Ezz Mohamed Nayel (エジプト)	ミヌフィーヤ大学 講師	25. 10. 1 ~ 26. 3. 31	Molecular Cell Biology of Equine Herpesvirus Infection

平成26年度岐阜大学一般入試（前期日程）学生募集

I 募集人員

学 部 名	課程・講座名		募集人員
教 育 学 部	学校教育教員養成課程	国語教育	19人
		社会科教育	28人
		数学教育	16人
		理科教育	20人
		音楽教育	8人
		美術教育	6人
		保健体育	7人
		技術教育	6人
		家政教育	8人
		英語教育	14人
		学校教育	心理学 コース
	教職基礎 コース		7人
	小計		149人
特別支援学校教員養成課程		15人	
計		164人	

学 部 名	学 科 名	募集人員
地 域 科 学 部	地 域 政 策 学 科	60人
	地 域 文 化 学 科	

学 部 名	学 科 名	募集人員
医 学 部	医 学 科	32人
	看 護 学 科	47人
計		79人

学 部 名	学科・コース名		募集人員
工 学 部	社 会 基 盤 工 学 科	環 境 コ ー ス	13人
		防 災 コ ー ス	13人
	機 械 工 学 科	機 械 コ ー ス	37人
		知 能 機 械 コ ー ス	23人
	化 学・生 命 工 学 科	物 質 化 学 コ ー ス	39人
		生 命 化 学 コ ー ス	30人
	電 気 電 子・情 報 工 学 科	電 気 電 子 コ ー ス	34人
		情 報 コ ー ス	32人
		応 用 物 理 コ ー ス	11人
	計		232人

学 部 名	課程・学科名	募集人員
応用生物科学部	応 用 生 命 科 学 課 程	54人
	生 産 環 境 科 学 課 程	50人
	共 同 獣 医 学 科	26人
	計	130人

Ⅱ 出願期間

学 部 名	期 間
教 育 学 部	平成26年 1 月27日（月）～ 平成26年 2 月 5 日（水）
地 域 科 学 部	
医 学 部	
工 学 部	
応用生物科学部	

Ⅲ 入試期日

学 部 名	期 日
教 育 学 部	平成26年 2 月25日（火）
	平成26年 2 月26日（水）
地 域 科 学 部	平成26年 2 月25日（火）
医学部（医学科）	平成26年 2 月25日（火）
	平成26年 2 月26日（水）
医学部（看護学科）	平成26年 2 月25日（火）
工 学 部	
応用生物科学部	

Ⅳ 合格者発表

学 部 名	期 日
教 育 学 部	平成26年 3 月 6 日（木）12時
地 域 科 学 部	
医 学 部	
工 学 部	
応用生物科学部	

平成26年度岐阜大学一般入試（後期日程）学生募集

I 募集人員

学 部 名	課程・講座名			募集人員
教 育 学 部	学校教育教員養成課程	国 語 教 育		5人
		数 学 教 育		8人
		理 科 教 育		16人
		音 楽 教 育		4人
		保 健 体 育		7人
		技 術 教 育		4人
		家 政 教 育		4人
		英 語 教 育		10人
		学 校 教 育	心 理 学 コ ー ス	5人
			教 職 基 礎 コ ー ス	4人
	小計			67人
特 別 支 援 学 校 教 員 養 成 課 程			5人	
計			72人	

学 部 名	学 科 名	募集人員
地 域 科 学 部	地 域 政 策 学 科	21人
	地 域 文 化 学 科	

学 部 名	学 科 名	募集人員
医 学 部	医 学 科	35人
	看 護 学 科	20人
計		55人

学 部 名	学科・コース名		募集人員
工 学 部	社 会 基 盤 工 学 科	環 境 コ ー ス	14人
		防 災 コ ー ス	14人
	機 械 工 学 科	機 械 コ ー ス	37人
		知 能 機 械 コ ー ス	23人
	化 学・生 命 工 学 科	物 質 化 学 コ ー ス	39人
		生 命 化 学 コ ー ス	30人
	電 気 電 子・情 報 工 学 科	電 気 電 子 コ ー ス	35人
		情 報 コ ー ス	32人
		応 用 物 理 コ ー ス	11人
	計		235人

学 部 名	課 程 名	募集人員
応用生物科学部	応 用 生 命 科 学 課 程	10人
	生 産 環 境 科 学 課 程	10人
	計	20人

Ⅱ 出願期間

学 部 名	期 間
教 育 学 部	平成26年 1 月27日 (月) ～ 平成26年 2 月 5 日 (水)
地 域 科 学 部	
医 学 部	
工 学 部	
応用生物科学部	

Ⅲ 入試期日

学 部 名	期 日
教 育 学 部	平成26年 3 月12日 (水)
地 域 科 学 部	
医学部 (医学科)	平成26年 3 月12日 (水)
	平成26年 3 月13日 (木)
医学部 (看護学科)	平成26年 3 月12日 (水)
工 学 部	
応用生物科学部	

Ⅳ 合格者発表

学 部 名	期 日
教 育 学 部	平成26年 3 月21日 (金) 10時
地 域 科 学 部	
医 学 部	
工 学 部	
応用生物科学部	

平成26年度岐阜大学推薦入学Ⅱ 特別入試学生募集

Ⅰ 募集人員

学 部 名	課 程 名	講座（専攻）名		募集人員
教 育 学 部	学校教育教員養成課程	社会科教育	史 学	2人
			地 理 学	2人
			法律・経済学	2人
			哲 学	2人
		美 術 教 育	4人	
		保 健 体 育	2人	
計				14人

学 部 名	学 科 名	募集人員
地 域 科 学 部	地 域 政 策 学 科	10人
	地 域 文 化 学 科	

学 部 名	学 科 名	募集人員	
		一般推薦	地域枠推薦
医 学 部	医 学 科	15人	25人

学 部 名	学科・コース名		募集人員	
			普通科・理数に関する学科卒業見込者	工業に関する学科卒業見込者
工 学 部	社会基盤工学科	環 境 コ ー ス	2人	1人
		防 災 コ ー ス	2人	1人
	機 械 工 学 科	機 械 コ ー ス	5人	1人
		知能機械コース	3人	1人
	化学・生命工学科	物質化学コース	6人	1人
		生命化学コース	4人	1人
	電気電子・情報工学科	電気電子コース	5人	1人
		情 報 コ ー ス	5人	1人
		応 用 物 理 コ ー ス	2人	1人
	計		34人	9人

学 部 名	課程・学科名	募集人員
応用生物科学部	応 用 生 命 科 学 課 程	10人
	生 産 環 境 科 学 課 程	10人
	共 同 獣 医 学 科	4人
	計	24人

Ⅱ 出願期間

学 部 名	期 間
教 育 学 部	平成25年12月13日（金）～ 平成25年12月17日（火）
地 域 科 学 部	
工 学 部	
応用生物科学部	
医学部（医学科）	平成26年 1 月22日（水）～ 平成26年 1 月24日（金）

Ⅲ 入試期日

学 部 名	期 日
教 育 学 部	平成26年 1 月25日（土）
地 域 科 学 部	
医学部（医学科）	平成26年 1 月29日（水）
	予備日 平成26年 1 月30日（木）
工 学 部	平成26年 1 月25日（土）
応用生物科学部	平成26年 1 月30日（木）
	平成26年 1 月31日（金）
	予備日 平成26年 2 月 1 日（土）

Ⅳ 合格者発表

学 部 名	期 日
教 育 学 部	平成26年 2 月12日（水）10時
地 域 科 学 部	
医学部（医学科）	
工 学 部	
応用生物科学部	

平成26年度岐阜大学私費外国人留学生特別入試学生募集

I 募集人員

学 部 名	募集人員
教 育 学 部	若干人
地 域 科 学 部	若干人
医 学 部 (医 学 科)	若干人
工 学 部	若干人
応 用 生 物 科 学 部 (応用生命科学課程, 生産環境科学課程)	若干人

II 出願期間

学 部 名	期 間
教 育 学 部	平成26年 1 月14日 (火) ～ 平成26年 1 月16日 (木)
地 域 科 学 部	平成26年 1 月22日 (水) ～ 平成26年 1 月24日 (金)
医 学 部 (医 学 科)	平成26年 1 月27日 (月) ～ 平成26年 1 月29日 (水)
工 学 部	
応 用 生 物 科 学 部 (応用生命科学課程, 生産環境科学課程)	平成26年 1 月 8 日 (水) ～ 平成26年 1 月10日 (金)

III 入試期日

学 部 名	期 日
教 育 学 部	平成26年 1 月31日 (金)
地 域 科 学 部	平成26年 2 月14日 (金)
医 学 部 (医 学 科)	平成26年 2 月25日 (火)
工 学 部	平成26年 2 月14日 (金)

IV 合格者発表

学 部 名	期 日
教 育 学 部	平成26年 3 月 6 日 (木) 12時
地 域 科 学 部	
医 学 部 (医 学 科)	
工 学 部	
応 用 生 物 科 学 部 (応用生命科学課程, 生産環境科学課程)	平成26年 2 月12日 (水) 10時

平成26年度岐阜大学医学部看護学科3年次編入学学生募集（第2次）

I 募集人員

学 科 名	募集人員
看 護 学 科	9人

II 出願期間

学 科 名	期 間
看 護 学 科	平成26年1月20日（月）～ 平成26年1月24日（金）

III 入試期日

学 科 名	期 日
看 護 学 科	平成26年2月25日（火）

IV 合格者発表

学 科 名	期 日
看 護 学 科	平成26年3月6日（木）正午

平成26年度岐阜大学大学院地域科学研究科修士課程学生募集（第2次）

I 募集人員

専 攻 名	一般入試	社会人	外国人留学生
地 域 政 策	若干人	若干人	若干人
地 域 文 化	若干人	若干人	若干人

II 出願期間

試験種別	期 間
一 般	平成25年12月20日（金）～ 平成25年12月26日（木）
社 会 人	
外 国 人 留 学 生	

III 入試期日

試験種別	期 日
一 般	平成26年2月1日（土）
社 会 人	
外 国 人 留 学 生	

IV 合格者発表

試験種別	期 日
一 般	平成26年2月14日（金）12時
社 会 人	
外 国 人 留 学 生	

平成26年度岐阜大学大学院医学系研究科(看護学専攻)修士課程学生募集(第2次)

I 募集人員

専攻名	募集人員
看護学	7人

II 出願期間

専攻名	期 間
看護学	平成25年12月2日(月)～平成25年12月6日(金)

III 入試期日

専攻名	期 日
看護学	平成25年12月14日(土)

IV 合格者発表

専攻名	期 日
看護学	平成26年3月6日(木) 正午

平成26年度岐阜大学大学院工学研究科博士前期課程学生募集(第2次)

I 募集人員

専攻名	一般	飛び入学	社会人	外国人留学生	社会人プログラム
社会基盤工学	8人程度	若干人	若干人	若干人	若干人
機械システム工学		若干人		若干人	若干人
応用化学		若干人		若干人	若干人
電気電子工学		若干人		若干人	若干人
生命工学	2人程度	若干人	若干人	若干人	若干人
応用情報学		若干人		若干人	若干人
機能材料工学		若干人		若干人	若干人
人間情報システム工学		若干人		若干人	若干人
数理デザイン工学	3人程度	若干人	若干人	若干人	若干人
環境エネルギーシステム	3人程度	若干人	若干人	若干人	若干人

※正式名称は学部3年次学生対象特別入試

II 出願期間

試験種別	期 間
一般	平成25年12月9日(月)～平成25年12月10日(火)
飛び入学	
社会人	
外国人留学生	
社会人プログラム	

Ⅲ 入試期日

試験種別	期 日
一 般	平成26年 1 月27日（月）・平成26年 1 月28日（火）
飛 び 入 学	
社 会 人	平成26年 1 月28日（火）
外 国 人 留 学 生	平成26年 1 月27日（月）・平成26年 1 月28日（火）
社会人プログラム	平成26年 1 月28日（火）

Ⅳ 合格者発表

試験種別	期 日
一 般	平成26年 2 月 7 日（金）12時
飛 び 入 学	
社 会 人	
外 国 人 留 学 生	
社会人プログラム	

平成26年度岐阜大学大学院工学研究科博士後期課程学生募集（第2次）

Ⅰ 募集人員

専 攻 名	一般入試	社会人	外国人留学生
生産開発システム工学	6人程度	若干人	若干人
物 質 工 学	若干人	若干人	若干人
電子情報システム工学	3人程度	若干人	若干人
環境エネルギーシステム	13人程度	若干人	若干人

Ⅱ 出願期間

試験種別	期 間
一 般	平成25年12月 9 日（月）～ 平成25年12月10日（火）
社 会 人	
外 国 人 留 学 生	

Ⅲ 入試期日

試験種別	期 日
一 般	平成26年 1 月28日（火）
社 会 人	
外 国 人 留 学 生	

Ⅳ 合格者発表

試験種別	期 日
一 般	平成26年 2 月 7 日（金）12時
社 会 人	
外 国 人 留 学 生	

平成26年度岐阜大学大学院応用生物科学研究科修士課程学生募集（第2次）

I 募集人員

専攻名	一般入試	社会人	外国人留学生
応用生命科学	若干人	若干人	若干人
生産環境科学	若干人	若干人	若干人

II 出願期間

試験種別	期 間
一 般	平成25年12月2日（月）～平成25年12月5日（木）
社 会 人	
外 国 人 留 学 生	

III 入試期日

試験種別	期 日
一 般	平成25年12月25日（水）・26日（木）
社 会 人	
外 国 人 留 学 生	

IV 合格者発表

試験種別	期 日
一 般	平成26年1月20日（月）10時
社 会 人	
外 国 人 留 学 生	

平成26年度岐阜大学大学院連合創薬医療情報研究科
後期3年だけの博士課程学生募集（第2次）

I 募集人員

専攻名	募集人員
創薬科学	若干人
医療情報学	3人

II 出願期間

専攻名	期 間
創薬科学	平成26年1月14日（火）～平成26年1月17日（金）
医療情報学	

III 入試期日

専攻名	期 日
創薬科学	平成26年1月30日（木）
医療情報学	

IV 合格者発表

専攻名	期 日
創薬科学	平成26年2月5日（水）正午
医療情報学	

諸会議

◇ 第418回役員会

11月7日（木）

議 題

1. 教育職員の人事（地域科学部：教授 1 名，准教授 2 名）について

◇ 第 7 回教養教育推進センター業務実施委員会

11月11日（月）

（承認事項のみ）

◇ 第 7 回部局長・部長会

11月14日（木）

事 項

1. 岐阜大学の国際化 policy と vision（案）について

◇ 第 7 回教養教育推進センター企画運営委員会

11月18日（月）

（承認事項のみ）

◇ 第419回役員会

11月21日（木）

議 題

1. 教育職員の人事（医学系研究科：准教授 1 名）について
2. 特任教員雇用申請について
3. 教育推進・学生支援機構の設置について
4. 地域協学センターの設置について
5. 学則等の一部改正について
6. 職員給与規則の一部改正について

◇ 第119回教育研究評議会

11月21日（木）

議 題

1. 学生の不幸事について
2. 岐阜大学の国際化 policy と vision（案）について

3. 教育職員の任期を定める規程の一部改正について

◇ 第420回役員会

11月21日（木）

議 題

1. 教育職員の任期を定める規程の一部改正について

◇ 第 8 回大学教育委員会

11月26日（火）

議 題

1. 教育推進・学生支援機構設置に伴う関連規程等の制定，改正及び廃止について
2. 教育推進・学生支援機構設置に伴う構成員（案）について
3. GPA（Grade Point Average）制度の導入について
4. 平成26年度「大学生基礎力調査」について
5. 平成26年度日本学生支援機構大学院第 1 種・第 2 種奨学生採用候補者の選考について

◇ 第 7 回国際戦略本部会議

11月27日（水）

議 題

1. 岐阜大学の国際化戦略の当面の課題について

◇ 第 7 回入学試験委員会

11月27日（水）

（承認事項のみ）

◇ 第421回役員会

11月28日（木）

議 題

1. 平成25年度執行計画について
2. 教育職員の人事（医学系研究科：教授 1 名）について

主要日誌

月 日	行 事 名
11 / 1	岐阜大学フェア2013（～2日まで）
2	第27回岐阜シンポジウム「再生医療最前線2013～日本で再生医療は実現できるか？～」
7	第418回役員会
8	代議員会（連農） 第60回解剖体慰霊祭（医）
11	第7回教養教育推進センター業務実施委員会
13	看護学科・看護学専攻教授会議（医） 教授会（メディア） 教授会・代議員会（工） 第38回岐阜大学フォーラム「環境ユニバーシティフォーラム」 利益相反講演会「産学連携と利益相反マネジメント」 留学生等と地元企業との交流会
14	第7回部局長・部長会
15	代議委員会（連獣） 岐阜大学 世界とつながる講演会「今なぜインドネシアなのか」
16	地域科学部入学試験（3年次編入学・推薦Ⅰ・社会人・帰国子女）
18	第7回教養教育推進センター企画運営委員会 スペシャル・イングリッシュ・ラウンジ
19	研究科委員会（連創） 岐阜大学長期インターンシッププログラム（GULIP）中間発表会（～29日まで）
20	教授会・研究科委員会（教・地・応） 医学研究科・医学科教授会議（医） 岐阜大学国際交流支援団体との交流会
21	第419回・第420回役員会 第119回教育研究評議会
22	永年勤続者表彰 ポットラックパーティ
25	教授会（生命）
26	第8回大学教育委員会
27	第7回国際戦略本部会議 第7回入学試験委員会 教授会（流域） クリーンキャンパス
28	第421回役員会 救命講習
29	ABS フォーラム「生物多様性条約におけるアクセスと利益配分－名古屋議定書以降の現状」